

じん肺における主な特徴

		じん肺		
		石綿肺	珪(けい)肺	その他のじん肺
原因物質		石綿	遊離珪(けい)酸	炭素、滑石、ろう石、鉄、アルミニウム等
病理学的特徴		・呼吸細気管支壁にみる明瞭な線維化と石綿小体の集ぞく	・気管支周囲の間質の強い線維化 ・所属リンパ節の変化	
胸部エックス線写真上の陰影	粒状影		・吸入粉じん量により異なる。 ・中下肺野に初発し、次第に上肺野に及ぶ。 ・経過とともに大きさと数を増して全肺野に及ぶようになる。 ・結節像は濃度が高く円形	・粉じんの種類や吸入粉じん量により異なる。 ・形は種々であり、小さく、濃度が低い。 ・進展に伴って数を増すが、けい肺のように個々の径を増すことは稀
	不整形陰影	・下肺野優位の不整形陰影(線状影、網状影) ・進展するに従い、両下肺野から中肺野、上肺野へと広がる。線状、網状影のパターンも粗大になる。 ・進行例では、蜂窩肺を主体としたものと無気肺硬化線維化を主体としたものがみられる。 ・通常は対称性であるが、一側に優勢なこともある。		・種々の形の小さな濃度の低い陰影が認められ、進展に伴って数を増す。
	大陰影 (長径が1cmを超える陰影)	・大陰影が出現することは極めて少ない(現在では認められないと言われている。)	・上肺野における粒状影が数と大きさを増し、次第に個々の粒状影が識別できない塊状影となり、比較的鮮鋭な辺縁と濃厚な陰影を示す大陰影になる。	・吸入粉じん量の増加等により大陰影に発達することがある。
	その他の変化	・胸膜の変化(両側肋横角の消失、横隔膜上の石灰化像、胸膜肥厚及びその石灰化像)が認められる。 ・気腫性変化がみられることがある。	・肺門リンパ節の高度な変化を伴う。 ・初期でも肺門影の変化が目立ち、肺門リンパ節の腫脹が明白になる。 ・長期間にわたる粉じんばく露者及び吸じん後長期間を経た者にはしばしば卵殻状石灰像(egg-shell shadow)をみる。 ・気腫性変化がみられることがある。	・肺門影の多少の増強を伴う。 ・気腫性変化がみられることがある。
呼吸生理		・拘束性換気障害	・閉塞性換気障害、拘束性換気障害	・閉塞性換気障害、拘束性換気障害

出典：じん肺診査ハンドブック(労働省安全衛生部労働衛生課編、中央労働災害防止協会発行)
石綿ばく露と石綿関連疾患-基礎知識と補償・救済-(森永謙二編、三信図書発行)